

【小学生の部】

◎日本動物福祉協会 一等賞 仲間 笑花(なかま えみか)

「自分らしく生きる猫」

猫の戦いが始まろうとしていた。うちの猫二匹が強そうな野良猫と外でずっとにらみ合いを続けている。お互い、うなったり、いかくをしたりしている。そんな中、うちのもう一匹の体の不自由な猫ララがよろよろと転びながら登場。そして、野良猫にむかって転びながら猫パンチをした。猫パンチは届いていなかったけど、不自然な動きで転んだララを見た野良猫はびっくりして逃げて行った。ララは、自分の猫パンチがきいて野良猫が逃げたとかん違いをして、横にいた猫二匹に勝ち誇ったような顔をした。

「ララ、すごいよ。かっこよかったよ。」

と言うと、ララはうれしそうだった。そんなララを見て、

(ララは幸せだな)

と思った。

でもよく考えると、

(ララは体が不自由だし、本当に幸せなのかな。そもそも、「幸せ」ってなんだろう)

と思うようになった。

ララは、三年前に家にやってきた。大雨の日にみぞに落っこちて、体の右半分が水の中に入った状態で必死に鳴いていたのを、私のお母さんに助けられた。一週間入院して治療をし、その後家にきて飼うことになった。けどララは、『右半身まひ』で、起き上がって歩くことも、ご飯を食べることも、トイレをすることも自分ではできなかった。でも、病院に通って治療をしたり、足のマッサージをしたり歩く練習をしたり、ララが元気になるように願いを込めて、できることは何でもした。けど、ララは変わらず立つことも歩くこともできなかった。でもあきらめないで、お母さんとおばあちゃんと一緒に、愛情を込めてお世話をした。口もとにご飯を運んであげて食べさせたり、トイレをする時にささえあげたりすることを、毎日毎日くり返した。

ある日、お母さんとララのことを話した。

「ララは自分で自分のことできないから、なるべくそばにいてあげないといけないし、寝たっきりだし、このままだったらかわいそうだし、ララは幸せかな。」

私は、ララが幸せかどうかよくわからなかった。その時は、ララに元気に歩いてほしいとただ思うばかりだった。その後も毎日時間があるときは話かけるようにしたり、歩く練習をしたりした。そしてやり始めて三か月、ララは立って少しだけ歩けるようになった。その後も毎日頑張って世話を続けて、今は自分でしっかり歩けるし、ご飯も食べられるようになった。でも、ララはまだ他の猫と比べて体が不自由で、できることは少ない。それでも、自分のペースで今もできることをどんどん増やしている。

私は、この文を書いていて改めて思った。

(今ララが歩いて元気に過ごせているのも、ララのことを助けてくれた人や病院の先生や家族

みんなの手助けがあったからだ。)

ララは、まだできないこともあるけれど、少し手を差し伸べてあげるだけで自分のやり方で、毎日少しずつ成長してる。「ララは幸せなんだ」と今なら思うことができる。

きっと人間も同じだと思う。例えば車いすの人や、耳が聞こえない人、目が見えない障害を持っている人や高齢者の人たちも、少し手を差し伸べてあげるだけでその人らしく幸せに生きていけるんじゃないかと思う。だから私は、助けが必要な動物や人に手を差し伸べて、その動物や人が成長して、自分らしく生きれるように少しでも力になりたいです。そして、動物も人間も幸せに自分らしく生きていける社会になってほしいです。